

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和5年度】

2024年 3月 5日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 170-0004

所在地 東京都豊島区北大塚2-24-5 ステーションフロントタワー2F

評価機関名 株式会社 地域計画連合

認証評価機関番号

機構 02 - 002

電話番号 03-5974-2021

代表者氏名 江田 隆三

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①		経営	H1102038
	②		福祉	H0602064
	③		経営	H0201025
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	大森北保育園			
事業所連絡先	〒	143-0016		
	所在地	東京都大田区大森北3丁目25番2号		
	TEL	03-3764-2060		
事業所代表者氏名	村上 久子			
契約日	2023年 5月 29日			
利用者調査票配付日(実施日)	2023年 7月 25日			
利用者調査結果報告日	2023年 11月 2日			
自己評価の調査票配付日	2023年 7月 25日			
自己評価結果報告日	2023年 11月 2日			
訪問調査日	2023年 11月 10日			
評価合議日	2023年 11月 10日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	・事前説明にあたっては、令和5年度方式の評点基準、確認根拠資料の準備について、わかりやすい独自資料を用意し、事業者の負担を軽減する工夫を行っている。 ・分析シートは記入のポイントを用意し、効果的、効率的に情報が整理できるよう工夫を行っている。 ・確認根拠資料は、訪問調査の概ね3週間前までに評価機関への提出を依頼し、根拠の事前確認を行ったうえで訪問調査を実施し、訪問当日は事業所の課題や良い点を把握するためのヒアリングに重点を置いて実施している。 ・合議は、訪問調査終了後、同じ日のうちに、速やかに実施している。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2024年 2月 27日

事業者代表者氏名

村上 久子

印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>(1)「愛を生むは愛のみ」の精神のもと、一人ひとりの子どもの思いを受け止め、全職員で全園児を保育します。 (2)子どもが生まれた時から持っている「育つ力」を安全と信頼に満ちた環境で、愛情をもって支援します。 (3)子どもの最善の利益を尊重し、心身ともに健康で友だちとよく遊べる子どもを育てます。 (4)思いやりのある子ども・興味や探求心のある子ども・自分の気持ちをはっきり言える子ども・感動できる子ども。 (5)ビジョンの職員としての理念や心を持ち、子供の成長の側にいるにふさわしい人であることを目指します。</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>ビジョンハートナー行動指針により</p> <ul style="list-style-type: none">・私たちは、一人ひとりの個性を大切に、心身の成長に真剣に向き合います。・向上心を持って日々学びます。・チームで目的を持ち、共有しながら自分自身の役割を意識し責任をもって果たす。 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none">・子どもの最善の利益を第一に考えて保育をおこなう。・子ども一人ひとりと丁寧に関わり、子どもの思いを受け止めていく。・一人ひとりが自分の役割を自覚し、連携していく。

調査対象

2023年7月25日現在の施設の利用者(保護者) 91世帯(利用者総数 110名)を対象とした。

調査方法

WEBアンケート。施設にて担任が保護者に手渡しする形で案内状を配付。保護者任意のデバイスにてアンケートに回答。

利用者総数	110
利用者家族総数(世帯)	91
共通評価項目による調査対象者数	91
共通評価項目による調査の有効回答者数	53
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	58.2

利用者調査全体のコメント

総合満足度(大変満足、満足を合計した割合)は、(92%、49人)となっている。

●各設問のうち、「はい」の比率が高かった上位は、以下の項目であった。

問1. 園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っていると思いますか
(100%、53人)

問2. 園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっていると思いますか
(98%、52人)

問3. 園で提供される食事・おやつは、お子さんの状態に配慮し、工夫されたものになっていると思いますか
問13. あなたは、職員がお子さんの気持ちを大切にしながら対応してくれていると思いますか
(各々 94%、50人)

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	53	0	0	0
生後4か月から通わせて頂いていますが、大きなトラブルもなく、すくすくと成長していると感じています。 自宅保育では、出来ない身体の動かし方集団行動での生活はこれから大きくなるにつれ将来に役立つと思っています。 家庭では体験させるのが難しいことや、多くの人との関わりで言語力や創造力などたくさんを学んでいるのを感じます。毎日楽しそうです。 などの意見があった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	52	1	0	0
運動遊びや英語遊びなど、専門の先生にも教えてもらいながら、興味の幅がひろがっていると感じています。 保育園には家ではなかなか遊べない滑り台やトンネル、広いホール・庭園などがあり、たくさんの自然にも触れられていると思う。 保育園で家庭だけではできない経験をできるので、視野が広がることで、子供の興味や関心の幅が広がっていると感じています。 などの意見があった。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	50	3	0	0
地域の名産など、家では中々食べられないメニューを出していただき、ありがたいです。本人も給食を楽しみにしています。 季節のものや、年齢が上の子達が育てた野菜などを食育として、給食に取り入れているのはとても良いと感じました。 保育園のおやつや給食は、とても美味しいようで、子供達もたくさん食べているようです。 などの意見があった。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	45	5	2	1
<p>園庭や近辺のいろいろな公園に連れて行って頂いています。 先生によって、戸外遊びの頻度は違うかなと感じますが、園庭や公園で遊ぶことを楽しんでます。 運動遊びや、英語を交えた交流会、近年はコロナの影響もありイベントは中止が多かったですが、規模を縮小してさまざまなイベントをしてくださるのはとてもありがたいです。 などの意見があった。</p>				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	45	6	0	2
<p>電話をして突然の延長を希望しても快く承諾していただけています。 仕事の内容により急な残業になることがありますが、毎回柔軟に対応していただけてとても感謝しています。 延長保育用の名簿があり、人数に空きがあれば対応して下さるので、とても助かります。また、一時的な返事ではなくきちんと確認・情報共有もされていると感じ、信頼できます。 などの意見があった。</p>				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	38	12	2	1
<p>園全体で見ても大きな事故はないと思いますので、しっかり対策がなされていると思います。 門扉の暗証番号は次年度には変更し、訓練を定期的に行ってくださっています。 玄関の門の時点でオートロックがあり、1年毎に番号を変更している。柵などを設置して階段のところからの転落防止などもされている。 などの意見があった。</p>				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	37	14	2	0
<p>一般的なレベルで配慮されていると思います。 仕事を休まなければならない時間帯ではあるので、1か月前ぐらいから時間が定まっているとありがたい。行事後にも仕事に戻れる環境は整えていただけていることは助かっている。 などの意見があった。</p>				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	45	7	1	0
<p>とても親身になって話を聞いて下さり、とても信頼しております。 先生のほうから、話しかけてくださることもありますが、私はけっこう、細かいところまで聞いてしまうので、先生から、というより自分から言う方が多いかもしれません。なので、先生から日々の本人の出来るようになったことなどを教えてもらった際はとても嬉しかったし、この先生はきちんと子どものことを見てくれているという信頼にも繋がりました。 などの意見があった。</p>				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	46	4	3	0
<p>毎日お掃除している所を拝見しています。 お掃除が行き届いていて、とてもキレイです。 などの意見があった。</p>				
10. 職員の接遇・態度は適切か	46	5	2	0
<p>どの先生方も丁寧で明るい話し方をしてくださいませ。 担任でない先生もいつも感じよくあいさつをしてくれ、嬉しく思っています。 みなさん、同じユニフォームを着用されていて、言葉遣いも丁寧です。 などの意見があった。</p>				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	49	3	1	0
<p>受診が必要な状態であれば連絡がきますし、細かい怪我等も帰りの引き渡しの際に教えてくれます。 看護師の先生が居るので安心です。 怪我をした際は経緯を時系列で詳細に確認して頂いています。また怪我が起こった原因について分析し、対策については職員の努力に頼らず、仕組みやルールを変えて対応して頂いており、とても信頼できます。 などの意見があった。</p>				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	36	12	0	5
<p>ちゃんと子どもの意見を聞いて対処してくださっています。 子ども的人数も多いため、すべてのことに目が行き届くのは難しいと感じています。何かあった際には、子どもから先生に声をかけるように話しています。 などの意見があった。</p>				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	50	3	0	0
<p>子どもが先生を好んでいるのがその証拠だと思います。 とてもよくやってくださっていると感じます！ こどもの気持ちに寄り添った受け答えをしてくれました。 などの意見があった。</p>				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	45	6	1	1
<p>精神の疾患がある際もさりげなくご配慮してくださいました。ありがとうございます。 と言った意見があった。</p>				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	46	7	0	0
<p>いつもその日あった出来事など、たくさんお話して下さいます。 忙しい中、子どもの様子を細かく見て頂いています。 などの意見があった。</p>				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	45	5	2	1
<p>そのような機会はありません。 まだ不満を言ったことがありません。 などの意見があった。</p>				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	31	15	4	3
<p>特に園の看護師さんからは色々なアドバイスをいただきました。 といった意見があった。</p>				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している <div style="text-align: right;">評点(〇〇)</div>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <div style="text-align: right;">評点(〇〇)</div>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <div style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</div>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリ1の講評	
	基本理念、ビジョン等は、様々な手法で職員や保護者へ周知している 基本理念、ビジョン等は、法人が作成する「ハートナーブランドブック」に詳しく記載され、毎年職員全員しに配付し周知している。また、このブックには、基本理念、ビジョンにくわえ、このビジョンを体現する人である職員の姿勢も併せて明示されている。さらに、法人本部が全職員に対し年1回研修を実施し基本理念等を周知し、法人傘下の各園は統一した知識、意識のもと保育を実施している。また、保護者へは「重要事項説明書」や「入園のしおり」を活用し、年2回の各クラスの保護者会や保護者面談等にて園長から説明し周知している。	
	園長のリーダーシップのもとエリアリーダー会議で取り組みや方向性を確認し示している 園長及び各職員の役割や責任については、「職員組織表」「会議体系」「係分担表」を作成し明確にしている。園長以下各職員はそれらに基づき日々の保育活動等を行っている。また、園長のリーダーシップのもと月2回のエリアリーダー会議(園長・主任・乳幼児リーダーで構成)を行い、園の取り組みや大事にしたいことの方向性を確認し、園の目指していることを示し、リーダー会議・職員会議等にて周知し、職員全員が同じ思いを持ち保育を進めることができるように努めている。	
	重要な案件について、定められた手法にて職員や保護者に周知している 園の重要案件については、リーダー会議(園長・主任・乳幼児リーダー・各クラスリーダーで構成)にて意見を聞き、エリアリーダー会議で検討・決定し、職員会議で全職員に周知している。給食会議では、園長、栄養士、調理職員、クラスリーダーが、行事食、調理室の環境について検討や決定をしている。保護者には、園だより・クラスだより・ほけんだより・栄養だより等の掲示・配付や送迎時の口頭による伝達等により、周知に努めている。	

カテゴリー2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>父母会アンケートや行事後アンケートで保護者の意向を把握し、園運営に活かしている</p> <p>年度末の父母会による保護者アンケートで園の総合的な運営に関することについて意見や要望を把握し、職員会議等で検討し次年度の園運営に活かしている。なお、環境整備等で園単独で解決できない問題は、区や法人本部と相談・協議して対応できるよう努めている。各行事後に実施している保護者アンケートでは保護者の意見や意向を把握し次回行事に活かしている。また、職員が抱えている課題、意向は各会議に加え、園長は年3回実施している職員面接だけでなく、必要に応じて個別に面談し不安や不満を取り除くように努めている。</p> <p>各種会議・研修に参加し地域の福祉ニーズを収集し、職員間での共有化に努めている</p> <p>園長は区立園長会や地域保育施設連携協議会等に出席し、区全体や地域の園の状況を把握し、地域の福祉ニーズに関する情報を得ている。得た情報は必要に応じて職員会議やリーダー会等にて職員間での共有化に努めている。また、参加している区の園長研修では質の高い保育を提供するため各園が抱えていることや職員の育成等事例を挙げ検討している。職員も可能な限り、区の研修その他外部研修に参加し福祉全体の動向等の情報を収集し職員会議等で共有に努めている。</p> <p>園で中長期計画と年度計画を策定し、課題・目標を設定して取り組んでいる</p> <p>区、法人の意向に基づき園の課題を踏まえて中長期計画を作成している。中長期計画では、課題・目標(何のために)、施策・方策(どうやって)、達成水準(何をどこまで)、成果物(達成検証物)といった目標をたて、進捗(確認・評価)を随時確認し、各年度末に進捗状況からの振り返りを行っている。園運営・人材育成・地域に分けて具体的な目標を設定しているが、定性目標であり確認・評価は難しい面がある。できた、できなかっただけでなく、どのようにすればより良かったかの観点から振り返ることを期待したい。</p>		

カテゴリ3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的確認している。	○非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリ3(3-3)

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況 **5/5**

評価項目1
透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○ 非該当

評価項目2
地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○ 非該当

カテゴリ3の講評

確認テストを行うなど様々な手法にて、法令・規範・倫理等の遵守に取り組んでいる
法人における倫理等の考え方は、職員全員に毎年配付される冊子(ピジョンハートナーブランドブック)に記載されている。入社時及び毎年コンプライアンス(法令遵守)や個人情報に関する研修を常勤職員全員が受講している。その結果正しく理解できたかどうかの確認テストも実施している。非常職員にも同じ内容の研修を園内で行い、確認テストも実施している。また、人権擁護のためのセルフチェックリスト(全国保育士会発行)にて、各職員がセルフチェックを行っている。このように法人全体で、法令・規範・倫理等の遵守に取り組んでいる。

引き続き、園以外の相談先の周知を行うことを期待したい

園の苦情窓口は、区には福祉オンブズマン及び区の担当課、園には受付窓口である主任、解決担当者である園長、第三者委員である地区の民生委員兼児童委員2名と、多様な窓口を用意し、重要事項説明書等に記載し保護者に説明している。利用者調査の結果からみると前回に比べ保護者の相談窓口の認知度は大幅に向上している。園から繰り返し保護者へ周知した結果であると思われる。引き続き、園以外の相談先の周知を図ることを期待したい。

様々な手法で地域全体の子育て支援に、さらに貢献することを期待したい

看護師や栄養士が常駐していることから見学者に対する子育て相談や区の「育児応援券」(妊娠中の方及び在宅で3歳までの乳幼児を子育て中の方が園で親子一緒に遊んだり、育児相談や給食の無料試食の体験をする)による支援は好評である。ただし、コロナ禍前には実施していた隣接の児童館での園の看護師や栄養士が講師となって行う地域向けの講座等は中止となっている。園や法人には長年培ってきた子育て支援のノウハウを有している。このノウハウを様々な手法で地域向けに還元し、地域全体の子育て支援に、さらに貢献することを期待したい。

カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
<p>BCPや安全計画の策定、避難訓練や不審者侵入訓練により、様々なリスクに備えている</p> <p>「業務継続計画(BCP)」(区所定様式)にて、災害発生初期対応(勤務時間内・勤務時間外)、大災害対応(重要業務の継続・災害対応)等を定めるとともに、「安全計画」(区所定様式)を作成・周知して、職員の役割分担を明確にし災害発生時に迅速に対応できるようにしている。避難訓練は、発生する災害内容・場所・時間等を変えた想定のもと毎月実施している(年1回は隣接する児童館と合同)。なお、不審者侵入訓練も年3回(1回は警察署員の来園による指導)実施している。担当リーダーは毎回異なり、各職員のリスク対応意識を高めている。</p> <p>個人情報の取り扱いについて、保護者や職員等に説明し同意書を得ている</p> <p>区のプライバシーポリシーが記載されている「個人情報について」を入園の際に配布し、利用目的を保護者に確認していただき、同意書を得ている。また、同内容を玄関に掲示している。開示請求については「プライバシーポリシー」に明記され掲示している。職員は入社時に個人情報に関する同意書を得られ、入社時及び年に1回、個人情報保護についての本部研修を受け理解を深めている。実習生やボランティアには事前の打ち合わせ時に書面を提示し説明のうえ同意書を得ている。</p>		

カテゴリ5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリ-2(5-2)

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

3/3

評価項目1
組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○ 非該当

カテゴリ-5の講評

様々な工夫をして、基本理念等を共有できるとされる者を採用するように努めている

法人が書類選考、面接、筆記試験等にて採用し、傘下の各園の意向を確認し配属している。法人のホームページには採用に関する情報を詳しく掲載し、待遇等の情報だけでなく、先輩職員の体験談等も掲載する等、採用のための工夫をしている。また、就職希望学生の園見学を行い、実際の仕事を見てもらったり、若手職員と座談会を行っている。ただし、現状園では産休・育休の職員が多く、系列園でも職員に余裕がなく異動による職員増が難しく、毎月のシフトに残業を計上せざるを得ない状況となっている。法人として、さらなる採用活動強化に努められたい。

キャリアパスや人事システムの周知をより徹底し、職務継続意欲の向上に繋がりたい

法人・都・区主催等の外部研修に参加し研修会後の職員会議での報告や園内研修によって職員間で共有し、こどもたちの保育活動や日々の取り組みに反映している。また、希望する研修を把握し各職員に合わせて研修を計画し参加しやすいようにシフト等配慮している。ただし、法人及び園では職員ごとの入職後に受講した研修実績の管理がされていない。担当業務・勤続年数・職位等に応じた必要なスキル取得のための研修計画や受講実績の管理を一貫して行い、「今期は、来期は」といった各職員の研修計画を作成しスキルアップを体系的に繋げるよう期待したい。

キャリアパスや人事システムの周知をより徹底し、職務の継続意欲の向上に繋がりたい

法人として、キャリアパスを作成し必要となるスキルの水準を明記し目指したい姿がわかり、職務の継続に繋がるようにしている。また、個人評価シートを園長・本部で評価し、育成、評価、報酬が連動した人事システムが構築され、職員の意欲向上に取り組んでいる。ただし、新たに採用された職員が多いこともあり、職員調査では、「事業者が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる」について、理解が不十分な職員も見られたことから、職員のさらなる意欲向上のため周知に努められたい。

カテゴリー7	
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
【課題・目標】 ・コロナ禍で感染防止に注力せざるを得ず、園内で話す時間・機会の減少や連携も不足を感じたため、「自ら学ぶ力、コミュニケーション力、保育の基本的な知識・経験、自ら行動する力、をつけていく」という目標を設定した。 【取り組み】 ・外部講師を招き、実際に保育に取り入れやすいような「伝承遊び」について研修を実施した。 ・本部顧問によるクラスごとに子どもの発達について学び直した。研修後にクラス内で話し合う場を設け、クラス運営に付いて共有し取り組みを考えた。その話し合いに園長・主任も参加し、月案ミーティング等を行う積極的な場とした。 ・区の研修や外部研修に積極的に参加し、職員会議で全職員にフィードバックし、情報共有に努めた。 【取り組みの結果】 ・中堅職員から、クラスを超えて積極的な意見が挙がり始めた。 ・研修内容の共有ができ、クラスを超えてリーダー同士が意見を交わし環境設定等一緒に取り組み、こどもの遊びの工夫に繋がった。 ・雑談を含め職員間でコミュニケーションがとれるようになった。 【今後の方向性】 取り組みを継続発展させ、主体的な学びの場を増やし職員の行動力を高め職員のチームワーク力と連携を高めていく。	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 ・目標は、園が求めている人材像や役割の一つである「向上心を持って日々学びます」を実現させるために必要で、設定は適切である。 ・①外部講師を招いての「伝承遊び」についての研修、②本部顧問による各クラスでのこどもの発達について学び直しと研修後の話し合いをクラス運営の共有や園長・主任も参加しての月案ミーティング等を行う積極的な場とすること、③区の研修や外部研修に積極的な参加と全職員への情報共有は、目標達成のための妥当な取り組みである。 ・これらの取り組みにより、中堅職員からクラスを超えて積極的な意見が挙がり始め、研修内容の共有やクラスを超えてのリーダー同士の意見交換により環境設定等を一緒に取り組み、こどもの遊びの工夫に繋がれ、職員間でコミュニケーションがとれるようになったという成果が出ており、「自ら学ぶ力、コミュニケーション力、保育の基本的な知識・経験、自ら行動する力、をつけていく」という目標の実現が出来てきている。 ・今後、主体的な学びの場を増やし職員の行動力を高め職員のチームワーク力と連携を高めていくということは、成果が上がった今回の取り組みを維持発展させることであり、今後の方向性として妥当で期待したい。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題・目標】

・コロナ禍での対応に追われ、保護者との情報共有や安全な環境での保育という観点で薄れがちと感じ、「①保護者に対して園の説明責任を果たす。②安全な環境と丁寧な保育を提供する。」という目標を設定した。

【取り組み】

- ①・保護者会でクラスの保育目標等に加え、クラスで大切にしている関わりや活動の取り組みを丁寧に伝えた。
 - ・専門職である栄養士・看護師から各クラス担任と情報共有し、保護者に必要な内容を伝えた。
 - ・子どもや保護者との信頼関係を築くために、気持ちに寄り添うことを意識する取り組みを推進した。
- ②・園内の環境設定の見直しを行った。
 - ・保護者との会話から感じ取った子育て等に関する悩みを園長との面談等に繋げ適切に対応した。
 - ・警察署員から不審者侵入訓練を受けた。さすまたの使い方の指導を受け、一人ひとり実践した。

【取り組みの結果】

- ①保護者との日々のコミュニケーションがとりやすくなった。
- ②安全対策を園全体の取り組みとして行うことで、職員の意識に変化がみられてきた。

【今後の方向性】

取り組みを継続発展させ、保護者との情報共有に注力し、安心と安全で楽しく過ごせる環境を提供していく。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"> ● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"> ● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

・「保護者に対する園の説明責任」及び「安全な環境と丁寧な保育」は、園運営の前提であり、設定した目標は適切である。
 ・クラスで大切にしている関わりや活動の取り組みの伝達、各クラス担任と情報共有した栄養士・看護師から保護者への必要な内容の伝達、子どもや保護者の気持ちに寄り添うことを意識する取り組みは、保護者に対して「園の説明責任を果たす」という目標達成のための妥当な取り組みである。
 ・保護者から感じ取った子育て等に関する悩みについての園長面談等に繋げての適切な対応、警察署員から受けた不審者侵入訓練は、「安全な環境と丁寧な保育を提供する」という目標達成のための妥当な取り組みである。
 ・上記取り組みにより、保護者との日々のコミュニケーションがとりやすくなってきたことや、安全対策を園全体の取り組みとして行うことで職員の意識に変化がみられてきたという成果が出ており、目標の実現が出来てきている。
 ・今後、保護者との情報共有に注力し安心と安全で楽しく過ごせる環境を提供していくことは、成果が上がった今回の取り組みを維持発展させることであり、今後の方向性として妥当で期待したい。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリー1の講評		
<p>利用を希望する人々に対してホームページやパンフレットで保育園の情報を提供している</p> <p>保育園の情報は、ホームページや見学者に配布するパンフレットに掲載している。ホームページでは、園内の施設の様子を写真で掲載したり、保育目標、行事、園の特色等を掲載し保育園の情報を提供している。見学時に配布するパンフレットには、基本情報、基本理念、保育方針、保育目標、保育園の取り組み、一日の保育の流れ、主な行事等を紹介している。また、こどもの活動の様子を写真で紹介もしており、見学の保護者が分かりやすいように工夫している。</p> <p>保育園や子育て支援に関する情報は、関係機関が連携して情報提供している</p> <p>当園は公設民営園であるため、行政機関と運営母体である企業本部の双方から保育園や子育て支援に関する情報を発信している。常時、行政機関との連絡を密にしている。区の公式ホームページにも保育園の一覧があり、区内保育園の毎月の空き情報は各園の最新情報を基に更新されており、利用希望者は空き情報などを確認しながら、入園の可能性を調べ、保育園探しが可能となっている。</p> <p>保育園についての問い合わせや見学についても丁寧な対応を心がけている</p> <p>保育園は大田区指定の見学会を年6回開催しており、主に園長が対応している。保護者から見学の問い合わせがあったときには、特に人数制限は設けていないが、あまり人数が多くなると説明が伝わりにくいこともあり、おおむね参加数は各回7~8家庭としている。見学の際には、園が大切にしている事、お子さんの健康について、午睡時にはうつぶせ寝をしないなどを説明しながら、実際に園内を案内している。保育室でのこどもと保育者の関わりなどをご覧いただきながら、保護者の質問にも丁寧に対応し園の様子を理解して頂くことで入園に繋げている。</p>		

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p>入園前にはオリエンテーションや個人面談で、基本ルールや重要事項等を説明している 入園前には重要事項説明書をもとに園長がオリエンテーションをおこない、個人面談ではそれぞれの専門分野に分かれて面談をおこない定められた書式に記入してもらっている。重要事項説明書には、保育園の役割をはじめ、運営方針、保育所の概要、一日の流れ、主な年間行事、延長保育料金、給食・おやつについて、健康管理について、災害対策、虐待に関する事項、個人情報の利用目的について等、保護者が必要とする情報を簡潔にわかりやすく記載している。園として守ってほしいルール等も保護者に説明し同意書にて同意を得ている。</p> <p>入園当初はこどもの不安やストレスを軽減するため、個別状況に応じた対応をしている 入園時サービスの開始にあたり、保護者の要望やこどもの状況を把握し、入園時の不安やストレスを軽減するために慣れ保育を実施している。園としての慣れ保育の期間はおおむね設定しているが、一人ひとりのこどもの状況や保護者の就労状況などを踏まえて、保護者の意向を聞きながら慣れ保育の時間や日程等を決めている。入園前の面談は経験の豊富な保育士や看護師、栄養士がおこない、面談の内容によっては職員会議で全職員が共有したり、またはクラス担任で共有している。</p> <p>退園するこどもや保護者が、新しい環境にスムーズに慣れていけるように支援している 保育園卒園児や途中退園児には、保護者やこどもの不安などに寄り添い、随時相談ができることを伝え、「いつでも園に遊びに来てね」「連絡してね」ということを園長や職員からも口頭で伝えている。途中退園するこどもの保護者には、こどもの成長を伝え、園を離れた後でも、いつでも園に遊びに来たり、相談に乗れることを伝え安心して次の新しい環境になじめるような声掛けをしながら、不安な気持ちを少しでも軽くしてもらうようにしている。卒園児には運動会のお知らせのはがきを送付し卒園後も継続した支援に繋げている。</p>		

サブカテゴリ-3

3 個別状況に応じた計画策定・記録

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

13/13

評価項目1

定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点(000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当

評価項目2

全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

評点(00000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○非該当

評価項目3

子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

評点(00)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

評価項目4
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当

サブカテゴリ3の講評

個別の成長の姿を保護者と園が共有できるよう工夫している

園の全体的な計画を踏まえて、クラスごとに年間指導計画から月案・週案・日案の計画におろし保育を行っている。期ごとに、こどもの姿や保育の振り返りをし、保育計画の見直しを行っている。個別に作成する「すくすくプラン」の書面を使い、個人面談の時期を目安に年1回実施し、こどもの「今の姿」や「こんな姿をめざして」を保育士が記入し、個人面談で保護者の意向を汲み入れながら保育の目標を共有している。「すくすくプラン」を作成することで、保育園と保護者が共通認識のもと、こどもの成長を育めるよう取り組んでいる。

日々の保育の様子が、保護者にわかりやすく伝わるよう工夫している

0～2歳クラスでは毎日の状況を連絡帳や送迎時のやりとりで把握している。園の玄関には毎日、その日のトピックスをクラスごとに写真を用いたドキュメンテーションで掲示している。また、各クラスの月の保育のねらいは保護者が見やすい掲示板にわかりやすく掲示されている。毎月の園だよりや季節ごとに配布するクラスだよりでも、こどもたちの日々の様子や取り組みの様子を掲載して、保護者に保育の活動を分かりやすく伝えている。

個別の記録は適切に管理され、職員会議等で情報を共有している

計画や個人の記録は、事務所内で適切に保管・管理され、保育に関わる職員がいつでも内容を確認できるようになっている。全体的な計画の各項目を踏まえて各クラスの年間・月・週日案・個別指導計画を作成している。職員会議・クラスリーダー会議・エリアリーダー会議等で、園の課題及び保護者やこどもの情報などを職員で検討・共有し、職員会議では情報共有の他に、職員が参加した研修の報告を行い学び合っている。クラスミーティングでは、こどもの情報や発達状況の共有、環境設定の見直し、月案の振り返り、クラスの課題の検討などを話し合っている。

サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得ようとしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリー5の講評		
<p>入園時に個人情報の取り扱いを説明し、保護者の意向を確認し、同意を得ている</p> <p>個人情報の扱いは入園時の重要事項説明書の中で説明している。園内にはこどもの個人ロッカーの名前や写真を掲示しており、こどもの作品やドキュメンテーションなども掲示されている。写真や名前を表示することで、こどもの様子や保育の様子が分かりやすくなっている。個人情報や画像などの使用については、「個人情報の利用目的」においての同意書や「区立保育園重要事項説明書等に関する同意書」にて保護者の同意を得ている。このほか、外部とこどもの情報などをやり取りする際には、その都度保護者の承諾を得ている。</p> <p>こどもの年齢や発達に合わせた支援に心がけており、羞恥心にも配慮している</p> <p>身につけてほしい羞恥心についての取り組みは、こどもの発達のプロセスや個性および自尊心を大切に育まれるよう職員間でも共有認識を持ち対応している。日常の保育の中では、トイレの排せつ時に他児から見えにくいように配慮をしたり、衣服の着脱は、全裸にならないように上下を別々に脱ぐように指導している。看護師からはプライベートゾーンについての話をし、こども自身が意識を持てるようにし、自分の身体を他人に見せたり触らせたりしてはいけないことを理解できるようにしている。</p> <p>虐待への対応を含め、それぞれのこどもを尊重した保育の実践に努めている</p> <p>集団生活の中でも個人を大切に、こどもの気持ちを受け止めていく保育と、保護者の思いに寄り添いながら支援できるような保護者対応を目指して、職員間で周知徹底が図られている。職員会議の中で区から提供された不適切保育の事例をもとに「不適切な保育について」を話し合い、職員間の理解を深めている。こどもへの言葉かけは適切か、トイレへの誘導を無理やりしていないかなど、具体的な事例を基に保育を振りかえり、保育の向上に繋げている。日々のラウンドの中で保育者のこどもへの関わりで気になる時には、園長、主任から指導を行っている。</p>		

サブカテゴリー6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリー6の講評		
<p>マニュアルは明確に整備され事務所に保管し、職員は必要に応じて確認できる</p> <p>各種マニュアルに沿って職員が同じ対応ができるよう、入社時の研修の他、定期的に振り返りや基本事項の読み合わせや確認を行っている。安全な保育のための手引きやアレルギーガイドラインマニュアル、感染症対応ガイドラインの他、法人独自のビジョンハートナーカレッジ冊子やビジョンハートナーブックを活用して、必要なものは職員に個別配布し理解が深められるよう工夫している。各種マニュアルは事務室内に保管され職員が必要な時にいつでも確認できるようにしている。</p> <p>業務マニュアルは、必要に応じて点検・見直しを行っている</p> <p>法人共通の各種マニュアルは法人本部が現場の保護者意見や保育者の意見を把握し、必要に応じて適宜見直しを行っている。園独自のマニュアルはリーダー層を中心に、保育の状況や職員の意見などを踏まえて、作成・見直しを行っている。今年度は職員の入替わりも多く、今まで先輩保育士から継承されてきた手順等を、可視化することで円滑な業務に繋げていきたいという職員からの意向も利用者アンケートから窺える。口頭での伝承は伝える人によって誤差が生じるため、園独自の手順書としての明確化を期待したい。</p> <p>職員の意見や保護者の声を、運営の見直し、改善に活かせるように取り組んでいる</p> <p>行事終了後の保護者アンケートや、個人面談での保護者の意見や要望は園内で検討し、必要に応じて見直し改善を行い、次年度の行事や日常の保育に反映している。職員の意向や意見は園長との職員面談で把握し、必要に応じて業務の改善に繋げている。保護者アンケートは職員間での検討や次回の改善に努めているが、行事アンケートの回答は保護者にフィードバックしておらず、園の考えや取り組みを更に保護者に理解、協力してもらうためにも、保護者への発信、周知方法の改善が望まれる。</p>		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ-6-4)

サブカテゴリ-4	
サービスの実施項目	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 36/36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている <p style="text-align: right;">評点(○○○○○○)</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している
評価項目1の講評	
<p>一人ひとりの生活環境や発達過程を把握し、保育に活かしている</p> <p>こども一人ひとりの生活環境は、入園面談時にこどもの様子を聞き取りその内容を所定の書式に記入し、職員で共有している。日々の連絡帳、送迎時の対話、個人面談等で、発育、発達、家庭状況を把握し、こどもの全体的な姿を捉えている。園での様子は各クラスの日誌に記録するほか、乳児(0~2歳児)は個別の連絡帳で家庭と園の情報を共有している。また、保護者からの要望やご意見等は、対応した職員が職員申し送りノートに記載し職員間で情報の共有をしている。必要に応じて園長が直接対応し、保護者との信頼関係の構築に努めている。</p> <p>こどもの思いを大切にするとともに、互いを認め尊重する心が育つよう援助している</p> <p>各クラス、こどもたちが遊びたい玩具に手が届き、自分で選べる環境や、「やりたい」という思いが自発的に持てるような環境に配慮している。クラスミーティングの中で玩具や環境の見直しを行い、日々の活動や遊びが充実するよう努めている。夕方の合同保育での異年齢児保育や、日々の異年齢児との関わりでは、自分と異なる存在を知り、玩具の貸し借りや遊びの中で友だちの存在を認め、楽しく遊びながら交流する環境を整えている。そういった子ども同士の関わりの中で、互いを思いやり、尊重する心が育つよう見守り援助している。</p> <p>子ども同士のトラブルは、発達段階を考慮して互いの気持ちを尊重して対応している</p> <p>保育者は、こども一人ひとりの発達段階を考慮し、自分の気持ちを言葉で表現する力や、気持ちを調整する発達の過程にあることを理解し対応している。自我の発達に伴うかみつきや子ども同士のトラブルが生じた場合は、保育者はお互いの気持ちや意見を聞き取り、仲立ちや代弁を行いながら、子ども同士が解決できるよう見守っている。子ども同士のトラブルによる怪我は園に責任があると考え、その旨を保護者に伝えている。トラブルがあったこどもの個人名は状況に応じて伝えている場合もある。</p>	

2 評価項目2		子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)	
評価		標準項目			
●あり ○なし		1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している		○非該当	
●あり ○なし		2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している		○非該当	
●あり ○なし		3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している		○非該当	
●あり ○なし		4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている		○非該当	
評価項目2の講評					
<p>送迎時に保護者からこどもの状況や健康状態を聞きとり職員間で共有している 登園時には、保育者がこどもの顔色、表情、機嫌等、健康観察をして保護者に口頭で健康状態等、こどもの様子を聞き取り、必要事項を各クラスの申し送りノートに記載し職員間で共有している。乳児クラスは連絡帳でもこどもの様子や健康状態を確認し、幼児クラスは受け入れの際に口頭と目視で健康状態を確認している。こどもの安定した園生活のためにも、送迎時の保護者とのコミュニケーションは大切と考えており、必要事項を簡潔に伝え、聞き取りができるように心がけている。</p> <p>年齢に応じたこどもたちの基本的な生活習慣の大切さやマナーを伝えている 年間食育計画や年間保健計画に基づき保護者と連携しながら、排せつや衣服の着脱、食事のマナーなど、基本的な生活習慣の自立に向けて、年齢に応じた指導を行っている。基本的な生活習慣の自立については、個々の発達の違いを踏まえつつ、保護者会や個人面談、保育参観等で生活習慣の大切さや一人ひとりに寄り添った援助をしていることを保護者に伝えている。こどもたちが目で見て理解しやすいように絵カードを用いて、椅子の正しい座り方や鉛筆の持ち方などが身につくよう工夫している。</p> <p>休息や午睡は、こどもの年齢や体調に配慮しながら調整し、生活リズムを整えている 年長児は就学に向けて1月ごろから少しずつ午睡時間を短くしたり、午睡をしない日を週に1～2日程度設けている。さらに、2月後半くらいからは午睡をなくしている。午睡時は部屋が暗くなりすぎないように、採光に配慮しながら無理に寝かしつけるのではなく、こども一人ひとりの生活リズムを把握し、体を休めるということを大切にしている。乳児は年齢別に、幼児はホールで合同で午睡を行っている。SIDS予防として、0・1歳児5分、2歳児は10分、3・4・5歳児は30分ごとに呼吸確認し一人ひとりの状態を午睡チェック表に記録している。</p>					

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当

評価項目3の講評

こどもの意欲を尊重した遊びの空間の設定や、集団活動への誘いかけを行っている

保育室の環境は、遊び・食事・睡眠を時間によって使い分けたり、コーナー遊びを充実することで、こどもたちが集中できるようにしている。集団生活の場である園での生活の中においても子どもの意欲を尊重するために、自由遊びの時間では「動」と「静」の活動が混在しないよう配慮している。集団活動では、集団遊びの他、英語や体操、文字遊び、数遊び等を行っているが、活動に入れない子へは、無理強いせず、「やってみたい」「やりたい」という気持ちを大切に、保育者は声をかけすぎず、こどもの気持ちを尊重し見守っている。

戸外活動を楽しみ、自然に触れあったり体を動かす体験をしている

安心して散歩や園庭遊び、屋上遊びができるように、安全に配慮しながら戸外活動をおこなっている。園庭遊びでは乳児と幼児の遊ぶ時間が重ならないでのびのびと活動できる時間を設けたり、季節の移り変わりを感じられるような活動を取り入れている。春にはお花見をしたり夏には虫取り、秋には落ち葉や木の実を拾うなど、自然と触れ合いながら季節の遊びを楽しんでいる。幼児組は園庭でピーマンやゴーヤ、サツマイモなど季節の野菜を育て、各クラスで収穫した野菜を、給食やクッキング保育で調理し味わっている。

活動を通して社会性、言語力、表現力などを育てている

保育者はこどもの気持ちを汲み取り言葉にしたり、相手に伝わるように仲立ちをしながら、こども一人ひとりの言葉に丁寧に応答し、言葉による伝え合いを楽しめるように配慮している。手遊びや絵本の読み聞かせ、日常会話の中で、正しい言葉・肯定的な言葉・優しい言葉を意識したやり取りしている。日々の活動は楽しむことを基本とし、集団遊びや伝承遊び、表現活動など友だちと一緒にいる中で、ルールを守る大切さを知り、自分の気持ちを調整する力を育てている。幼児クラスは発表会で劇遊びを披露するなど、行事を通して言葉に対する感覚を培っている。

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>子どもたちがそれぞれの年齢に応じた興味や関心が持てるように配慮している 行事については日常の保育を基本に、こどもの日々の活動からプログラムを決定している。運動会やお楽しみ会は、運動遊び・劇遊び・表現遊びを中心に、行事によっては乳児と幼児別々に会を催し、それぞれの年齢が無理なく参加できるよう配慮している。子どもたちが自然に行事への意欲が高まるように、保育者が中心になって準備をするのではなく、劇遊びの大道具や小道具など、必要な準備は子どもが制作したり、子ども同士の話し合いから決定し、子どもたちが協力して作り上げていくことを大切にしている。</p> <p>こどもの興味ややる気を引き出し、やり遂げた喜びが体験できるように取り組んでいる 行事に参加するまでの気持ちの変化や、友だちと協力して準備をする過程も大切にしている。一人ひとりのこどもが主体的に行事に関わり、自分で考え皆で協力してできたという達成感を味わえるよう、子どもたちの興味ややる気を引き出している。運動会では友だちと力を合わせることで達成できるパラバルーンや組体操などを取り入れたり、劇遊びの配役決めなど、子どもたち自身で考え決めることで行事への意欲が高まるよう、保育者は適度な距離感で関わり援助するとともに、子どもたちが楽しんで行事に参加できるように配慮している。</p> <p>行事の様々な取り組みを通じて、こどもの成長が保護者に伝わるよう努めている 保護者には年間行事計画を年度当初に配布し、1年間の大まかな行事予定をお知らせしている。保護者が行事を通じて、こどもの成長を感じられるよう、当日のこどもの姿だけではなく、取り組みの過程や練習の時の子どもたちの様子などを写真など用いて掲示物やお便りで伝えている。また、行事に対しての理解や協力を得られるよう行事のねらいやこどもの成長の様子が伝わるように工夫している。終了後には、記載を依頼した保護者アンケートを回収し、ご意見、感想を次の行事に活かしている。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような環境に配慮している 延長保育時間は5歳児のクラスで、延長保育専用の玩具を用意したり、自分のクラスの遊び慣れた玩具を使って落ち着いて遊ぶことができるように配慮している。夕方は18時15分から20時15分までが延長保育時間となり、現在延長保育を利用している園児は通常10人程度である。延長保育時間には長時間保育による疲れなどを考慮し、ゴザやマットの上で体を横にしたり、ゆっくりとした雰囲気の中で遊ぶことができるように落ち着いた環境に配慮している。</p> <p>子どもたちが楽しく過ごせるように配慮し、クラスごとに引継ぎを徹底している 延長保育時間を利用する園児は、少人数のため、落ち着いた環境づくりを重視している。延長保育の時間帯は異年齢児の少人数でゆったりとした保育が行われる時間となっている。延長保育では保護者の希望により夕食の提供もしている。夕食時は保育者が見守るなか、家庭的な雰囲気を作りながら、子どもが安心して過ごせるように配慮している。保育者は年齢の違う子どもたちが関わりながら楽しく遊ぶよう見守っている。</p> <p>保育形態が変わっても、保護者にこどもの様子がしっかり伝わるように努めている 延長保育時間の時間帯によっては、担任以外の保育者が関わることで、こどもが人見知りや不安を感じることもある。そのような場合には慣れている職員や担任が、そのこどもが落ち着くまで側で一緒に遊んだりスキンシップを図りながら、こどもの不安な気持ちを軽減できるよう努めるなど園全体でサポートしている。保護者のお迎え時には、「送迎ボード」を活用し、こどもの一日の様子、体調の変化、担任からの引継ぎ事項や伝言が漏れることなく保護者に伝えられるようにしている。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>落ち着いた雰囲気の中で、子どもが楽しく食べられるような配慮がされている</p> <p>子どもの年齢や身体の成長に合わせたテーブルや椅子を使用している。0歳児は月齢や身体の大きさに合わせて、肘掛けのある椅子、または肘掛けのない椅子を使用している。子どもたちは、落ち着いて安心した雰囲気の中で食事が食べられるようテーブルの座る場所が決まっている。自分で食べる意欲が持てるように保育者は必要な時には介助を行い、介助が必要でない場合は見守りながら楽しく食べられるよう配慮している。子どもの食べたいという意欲を大切に、無理強いすることなく苦手な食材も少しずつ食べられるように声掛けをしている。</p> <p>食物アレルギーや宗教食への配慮など、食事の個別対応に努めている</p> <p>アレルギー対応、宗教食対応が必要な子どもは入園面接時に把握し、適切な対応を行っている。食物アレルギー児には医師の指示書に基づき、除去食や代替食品を提供している。アレルギー食は専用のトレー、食器を用意し対応している。提供にあたっては事前の保護者の献立確認や調理時の複数職員の確認の徹底、配膳時の栄養士と調理師のダブルチェック、クラスでの担任同士とのダブルチェックを行うなど、人為的なミスが起こらないようさまざまな対策を講じている。</p> <p>子どもの食への興味や関心が高められるような取り組みをしている</p> <p>年間食育計画に基づき野菜の栽培、収穫、食材の皮むき、クッキング保育などの取り組みを実施している。園庭で栽培したピーマンを収穫してピザ作りをしたり、ブラックボックスの中に野菜を入れて、何の野菜かを触って当てるゲームを楽しんだりしながら、野菜に触れることで食への興味、関心を高めている。食育活動の一環として、幼児は保育者が盛り付けたものをテーブルまで運んだり、自分の食べた食器を片づけるという活動の中で、食べ物への感謝の気持ちや食器を大切に扱うことへの意識を育んでいる。</p>		
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>健康の大切さが分かり、安全習慣が身につくよう年齢に応じた保健指導を行っている</p> <p>乳幼児時期に育みたい健康な心と体、自分自身で健康で安全な生活を作り出す力を養えるよう年間保健計画を立案し、看護師による手洗い指導、歯科指導など保健指導を計画し実施している。5歳児に向けて命の大切さやプライベートゾーンの大切さを伝えるために、看護師と担任が『ふざけて友だちの身体に触るのはどうなの?』と、寸劇で分かりやすく伝え、子どもと一緒に考える場を設けた。保護者会でも看護師からプライベートゾーンについての取り組みを説明し、理解を深めている。</p> <p>医療機関との連携体制を整え、子どもの健康維持に向けた取り組みを行っている</p> <p>子ども一人ひとりの健康状態は入園時に提出された各種書類や嘱託医による定期健康診断(0歳児毎月1回、1~5歳児年2回)、歯科検診(年2回)で把握し、日々の健康観察等で子どもの健康維持に努め、子どもたちが健やかに園生活を送れるよう配慮している。保育園での薬の取り扱いや感染症などについては入園時に配布した重要事項説明書に詳細を記載している。抵抗力の弱い乳幼児を預かる施設として、病気回復後の登園についても登園時の注意事項や登園届の有無など、細かく説明をし協力を仰いでいる。</p> <p>様々な情報を保護者に伝え、家庭と共に子どもの健康維持に関する取り組みを図っている</p> <p>入園時の説明で、感染症予防対策や乳児突然死症候群の予防対策について話をしたり、期ごとの保健だより、掲示等で季節の疾患や感染症、健康維持について保護者に情報を発信している。午睡時には年齢ごとに定められた時間で呼吸確認をおこない、顔色、体調の変化に気を付けながらチェックを行っている。必ず仰向けで寝るようにし、保育室内の室温・湿度の調節、体温の上昇や咳などにも留意し、子どもの少しの体調変化もお迎え時の保護者に伝えるなど、健康維持に努めている。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者が安心して子育てと仕事の両立ができるよう支援している 保護者の就労状況は入園時面接や調査書等で把握している。園は各家庭の個別事情や保護者の仕事、生活等の状況を把握し、家庭の状況の変化などを日々の送迎時の保護者との対話で把握し、支援に繋げている。保護者が安心して子育てと仕事の両立ができるよう、日々の送迎時などのコミュニケーションを大切にしながら急な延長保育などにも柔軟に対応している。個々の保護者の事情については保護者の不安や要望を聞き取り、必要に応じて全職員またはクラス担任が共有し、職員全体で支援を行っていけるように努めている。</p> <p>こどもの園での生活や活動を、お迎え時の対話や連絡帳などで保護者に伝えている 日々のこどもの様子や活動の様子をお迎え時に直接話をしたり連絡帳に記載するほか、おたよりや毎日のトピックスとして掲示でお知らせしている。おたよりや毎日のトピックスには写真を多く取り入れ、こどもが楽しんでいる様子や成長が保護者に伝わりやすく、理解しやすいように工夫している。集団の中でのこどもの様子を知り、理解してもらうことで、保護者の安心感や子育て支援にも繋がっている。個人面談では、「すくすくプラン」を活用し、現在のこどもの様子とこれからの個々の目標を、園と保護者が視覚化したものを共有できるよう取り組んでいる。</p> <p>保護者の意向を把握し 子育て支援や保育の改善に繋げている 運動会やお楽しみ会、保育参観・参加の行事では保護者同士の交流が持たれるほか、今年度はコロナ感染症が5類になったことを受けて、保護者参加の行事を少しずつ拡大している。様々な機会での保護者の要望や意向をアンケートや対話から聞き取り把握できるように努めている。行事後の保護者アンケートの要望や意見などは、必要に応じて職員間で検討し、保育の改善や保護者の子育ての支援に繋げている。保護者の子育ての悩みや不安を察知したときには職員間で共有し、担任や園長が個別面談の時間を設けている。</p>		
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の方の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>地域の公共施設を利用し こどもたちの体験・経験の機会を広げている 散歩に出かけた際には、公共施設や公園でのマナーを守りながら、こどもたちは近隣の方たちと挨拶を交わし、地域の人々との交流を図っている。主に5歳児は、就学に向けて午睡がなくなる時間を活用して、定期的に近隣の図書館に訪問し、自分で絵本を選び借りてきている。コロナ感染症が5類になったことで少しずつ地域との交流も変化しているが、一気に戻すのではなく少しずつ様子を見ながら始めている。隣の児童館との交流も状況を見ながら再開していく予定である。今までの地域交流の在り方も見直しながら、早い再開が望まれるところである。</p> <p>こどもたちがさまざまな人々とふれ合い、交流を持つ機会を広げて行くことが期待される 今年度は、中学生の職場体験や近隣の保育園との交流を再開している。近隣の保育園とは水遊びをしたり、保育活動を一緒に行いながらこども同士の交流を深めるなど、様々な人との関わりが増えてきている。コロナ感染症が5類に移行されたばかりであり、まだ地域の方との関わりが少ないが、今後、児童館や小学校、地域の人々との交流を積極的におこないこどもたちが様々な人と関わる機会が更に広がることに期待したい。</p> <p>地域資源を活用しながら、こどもたちが様々な体験の機会を広げている 幼児は警察署員による交通安全教室やセーフティ教室、不審者対応訓練などに参加している。交通安全教室では戸外での危険や交通ルールについて、道路の歩き方、横断歩道の渡り方などを学んでいる。セーフティ教室では、知らない人に声をかけられたときの対応などを学び、こどもが自ら危険を回避できるような力を育めるようにしている。また、中学生の手作り玩具や木製業者による木の玩具の触れ合いなど様々な体験の機会を設けている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-5-2	サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している
タイトル①	こどもの権利と人権を守る意識向上に取り組み、保育の質の向上を図っている	
内容①	マニュアルの読み合わせや不適切保育に関する事例をもとにカンファレンスを実施し、不適切保育に関して職員間で理解を深めるとともに、「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を活用し、振り返る機会を持っている。また、継続的に園内研修を実施し、こどもの人権についてグループ討議を行い、こどもたちと関わる中で何を大切にすべきか、こどもの権利とは何か等、職員全員で自分の保育を振り返り、考え、保育の現場で実践できるような意見交換をおこなっている。園内研修の取り組みはドキュメンテーションにして掲示をし保護者に共有している。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	3-1-1	社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる
タイトル②	確認テストを行うなど様々な手法にて、法令・規範・倫理等の遵守に取り組んでいる	
内容②	法人における倫理等の考え方は、職員全員に毎年配付される冊子(ピジョンハートナーブランドブック)に記載されている。入社時及び毎年コンプライアンス(法令遵守)や個人情報に関する研修を常勤職員全員が受講している。その結果正しく理解できたかどうかの確認テストも実施している。非常勤職員にも同じ内容の研修を園内でおこない、確認テストも実施している。また、人権擁護のためのセルフチェックリスト(全国保育士会発行)にて、各職員がセルフチェックを行っている。このように法人全体で、法令・規範・倫理等の遵守に取り組んでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	4-1-1	事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる
タイトル③	BCPや安全計画の策定、避難訓練や不審者侵入訓練により、様々なリスクに備えている	
内容③	「業務継続計画(BCP)」「(区所定様式)にて、災害発生初期対応(勤務時間内・勤務時間外)、大災害対応(重要業務の継続・災害対応)等を定めるとともに、「安全計画」(区所定様式)を作成・周知して、職員の役割分担を明確にし災害発生時に迅速に対応できるようにしている。避難訓練は、発生する災害内容・場所・時間等を変えた想定のもと毎月実施している(年1回は隣接する児童館と合同)。なお、不審者侵入訓練も年4回(1回は警察署員の来園による指導)実施している。担当リーダーは毎回異なり、各職員のリスク対応意識を高めている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	保育実践を積み上げ、主体的に学び合う園内研修や職務の専門性を活かした取り組みで、保育の質の向上を目指している
	内容	園内研修や職員会議の中で、「子どもの人権について」「不適切保育とは」というテーマで話し合い、学び合っている。保育の中では、看護師による子どもたちへの保健指導（手洗いやうがい、トイレ指導、命の大切さなど）を実施している。また、定期的に保健だよりを発行し、保護者会では看護師が保護者に向けて、子どもの健康維持や病気の予防対策などについて話をしている。他にも、職員に向けて、アレルギー対応のシミュレーション、下痢・嘔吐対応、救急手当研修、熱中症対応など、保育の向上と安全な保育を目指し、様々な園内研修に取り組んでいる。
2	タイトル	子どもが落ち着いた生活の中で様々な事象に関心を持ち、自発性や主体性を発揮できるよう、充実した環境になるように努めている
	内容	子どもたちが主体的、自発的に遊びに取り組めるように、保育室内の環境を整え遊具の配置や遊びこむためのコーナーの設置に工夫している。幼児のコーナー環境には手先の活動ができるような教材を用意したり、乳児のコーナーには集団ではなく個々で好きな遊びが楽しめるような工夫をしている。環境空間は、子どもの身体の成長や運動機能の発達も考慮し、年齢に合わせた空間となっている。各クラスでは、定期的に環境や玩具の見直しを行い、子どもの成長・発達を考慮した環境設定を実践している。
3	タイトル	子どもたちの成長や園での活動の様子を保護者と共有できるよう工夫している
	内容	保護者には、子どもの園での生活を理解し安心してもらえるように、連絡帳や送迎時の対話で子どもたちの日中の様子やエピソードを伝えている。さらに、毎日子どもの活動の様子を写真に撮りドキュメンテーションを作成し、園の玄関に掲示している。ドキュメンテーションは同じ場所に全クラス掲示することで保護者は自分の子のクラス以外の活動も知ることができる。個々の園での姿や成長の様子は、年1回「すくすくプラン」に保育者から見た子どもの成長とこれからの目標を記載し可視化したものを保護者と共有し、共通認識が図れるように努めている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	見学者に対する子育て相談や区「育児応援券」等に加え、様々な手法で地域全体の子育て支援に、さらに貢献することを期待したい
	内容	看護師や栄養士が常駐していることから見学者に対する子育て相談や区の「育児応援券」（妊娠中の方及び在宅で3歳までの乳幼児を子育て中の方が園で親子一緒に遊んだり、育児相談や給食の無料試食の体験をする）による支援は好評である。ただし、コロナ禍前には実施していた隣接の児童館での園の看護師や栄養士が講師となって行う地域向けの講座等は中止となっている。園や法人には長年培ってきた子育て支援のノウハウを有している。このノウハウを様々な手法で地域向けに還元し、地域全体の子育て支援にさらに貢献することを期待したい。
2	タイトル	職員ごとの入職時からの研修計画・実施状況管理を体系的に行い、各職員のスキルアップに繋げることを期待したい
	内容	法人・都・区主催等の外部研修に参加し研修会後の職員会議での報告や園内研修によって職員間で共有し、子どもたちの保育活動や日々の取り組みに反映している。また、希望する研修を把握し各職員に合わせて研修を計画し参加しやすいようにシフト等配慮している。ただし、法人及び園では職員ごとの入職後に受講した研修実績の管理がされていない。担当業務・勤続年数・職位等に応じた必要なスキル取得のための研修計画や受講実績の管理を一貫して行い、「今期は、来期は」といった各職員の研修計画を作成しスキルアップを体系的に繋げるよう期待したい。
3	タイトル	制定されているキャリアパスや人事システムの周知をより徹底し、職員が職務を継続する意欲の向上に繋げることを期待したい
	内容	法人として、キャリアパスを作成し必要となるスキルの水準を明記し目指したい姿がわかり、職務の継続に繋がるようにしている。また、個人評価シートを園長・本部で評価し、育成、評価、報酬が連動した人事システムが構築され、職員の意欲向上に取り組んでいる。ただし、新たに採用された職員が多いこともあり、職員調査では、「事業者が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる」について、理解が不十分な職員も見られたことから、職員のさらなる意欲向上のため周知に努められたい。